

■テーマ：「東京ディズニーランドの成功から見えてくるもの・学べること」

コーディネーター 筑波大学助教授

嵯 峨 寿

人生80年時代はすでに現実となり、豊かさの基準はモノから心へ、所有から存在へとシフトし、レジャー社会への転換の必要が説かれて久しい。しかし、産業を含む社会のレジャーサービスは、はたしてそうした人々の価値観やライフスタイルの変化に応じ切れているのだろうか。若者に人気のあったスキー&スノーボードも、リフト待ちの長蛇の列は過去の話となり、スキー場は経営危機に直面している。また80年代を中心に全国各地に乱立したテーマパークも経営破綻が相次いでいる。こうした現象は、これまでのレジャー産業のあり方の見直しを迫っているのではないだろうか。その一方で、唯一安定した集客力を維持し、「ひとり勝ち」のテーマパークがある。東京ディズニーランド(TDL)である。

多くのテーマパークが倒産し、各種レジャー・レクリエーション関連施設が方向転換を迫られる中、なぜTDLだけが今なお進化を遂げているのだろうか。「顧客満足を最優先したサービス重視の経済価値追求ビジネス」という旧来のとらえ方では、その真価は容易につかめないのではないか。夢を与え続け、人々のところをとらえて離さないその魅力と、それを生み出す発想や工夫のなかに、真のレジャーライフの創造・享受をうながす何か有益なヒントを見出すことができるのではないか。

本ワークショップでは、TDLの成功に学ぶことを通して、人々のレジャーライフの新たな胎動を探るとともに、他のレジャー・レクリエーション産業分野への応用性などについて論議してみようと考えている。

■キーノート 上澤 昇(オリエンタルランド前副社長)

■コメンテーター 粟田 房穂(宮城大学)
犬塚潤一郎(実践女子大学)
坂田 信久(国土館大学)